様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第１面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和８年　６月　１０日

群馬県知事殿



提出者　〒110-8560
住　所　東京都台東区台東１丁目５番地１号
氏　名　TOPPANパッケージプロダクツ株式会社
代表取締役　今泉　淳

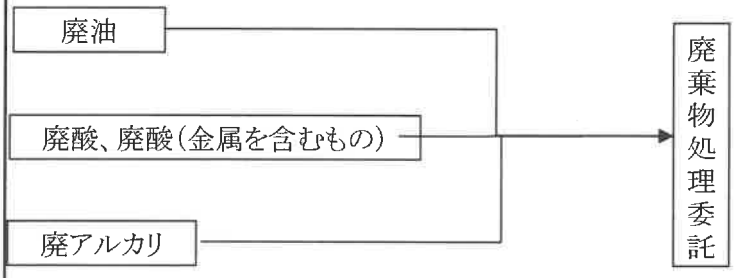
（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　03-3835-6311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の２第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	TOPPANパッケージプロダクツ株式会社　群馬センター工場
事業場の所在地	群馬県邑楽郡明和町大輪６６７－１
計画期間	令和８年４月１日から令和９年３月３１日

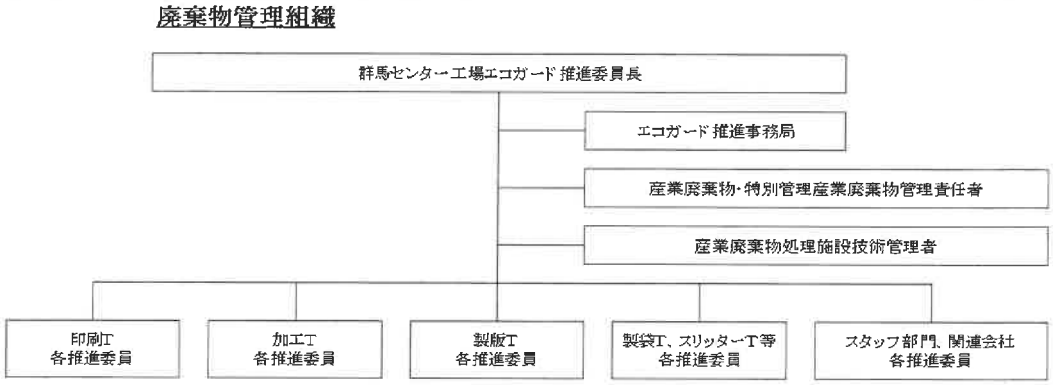
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：製造業　中分類：印刷同関連業
②事業の規模	生産高 約220億円
③従業員数	908人　（令和8年4月1日現在）
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	

（日本産業規格　Ａ列４番）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（令和７年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
排　　出　　量	581.7　t	118.1　t

（これまでに実施した取組）

・事前調色による過剰インキ使用量削減
・工程での使用量削減による廃酸、廃アルカリの削減

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
排　　出　　量	612.1　t	124.3　t

（今後実施する予定の取組）
生産は6.5%増加する見通しで、廃棄物も6.5%増加するが
以下の施策により原単位を令和7年度比△1.2%減とする。
・事前調色による過剰インキ使用量削減
・工程での使用量削減による廃酸、廃アルカリの削減
・残肉利用による廃インキ量削減
・廃酸（金属を含むもの）は、令和8年度以降も一定量の
排出があるものと見込む

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
廃酸、廃アルカリについては工程が異なり、機械の自動化による分別を実施している。

②計画

（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
①の現状と同じ。

廃アルカリ	廃酸（金属を含むもの）
36.7 t	5.8 t

廃アルカリ	廃酸（金属を含むもの）
38.6 t	6.1 t

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和７年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	―	―
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和７年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	―	―
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	― t	― t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	―	―
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	― t	― t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状

【前年度（令和７年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	―	―
自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	― t	― t

（これまでに実施した取組）

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	―	―
自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	― t	― t

（今後実施する予定の取組）

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度（令和７年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
全処理委託量	581.7 t	118.1 t
優良認定処理業者への処理委託量	492.9 t	118.1 t
再生利用業者への処理委託量	579.6 t	118.1 t
認定熱回収業者への処理委託量	2.1 t	0.0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	- t	- t

（これまでに実施した取組）

・事前調色による過剰インキ使用量削減

―	―
― t	― t

―	―
― t	― t

廃アルカリ	廃酸（金属を含むもの）
36.7 t	5.8 t
36.7 t	5.8 t
35.7 t	0.0 t
1.0 t	5.8 t
－ t	－ t

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油	廃酸
全処理委託量	612.1 t	124.3 t
優良認定処理業者への処理委託量	518.6 t	124.3 t
再生利用業者への処理委託量	609.9 t	124.3 t
認定熱回収業者への処理委託量	2.2 t	0.0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	－ t	－ t

（今後実施する予定の取組）
生産は6.5%増加する見通しで、廃棄物も6.5%増加するが以下の施策により原単位を令和7年度比△1.2%減とする。
・事前調色による過剰インキ使用量削減
・工程での使用量削減による廃酸、廃アルカリの削減
・廃酸（金属を含むもの）は、令和8年度以降も一定量の排出があるものと見込む

電子情報処理組織の使用に関する事項

【前年度（令和７年度）実績】

特別管理産業廃棄物排出量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。） 742.3t

（今後実施する予定の取組等）
1)JWNETを活用した電子マニフェストの利用実施の継続。
2)収集・運搬業者、処分業者に対して電子マニフェストの利用依頼継続。

※事務処理欄

廃アルカリ	廃酸（金属を含むもの）
38.6 t	6.1 t
38.6 t	6.1 t
37.6 t	0.0 t
1.1 t	6.1 t
－ t	－ t

備考

1　前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2　当該年度の6月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5　「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。

6　「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

7　「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及びその理由を含む。）について記入すること。

8　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

9　※欄は記入しないこと。